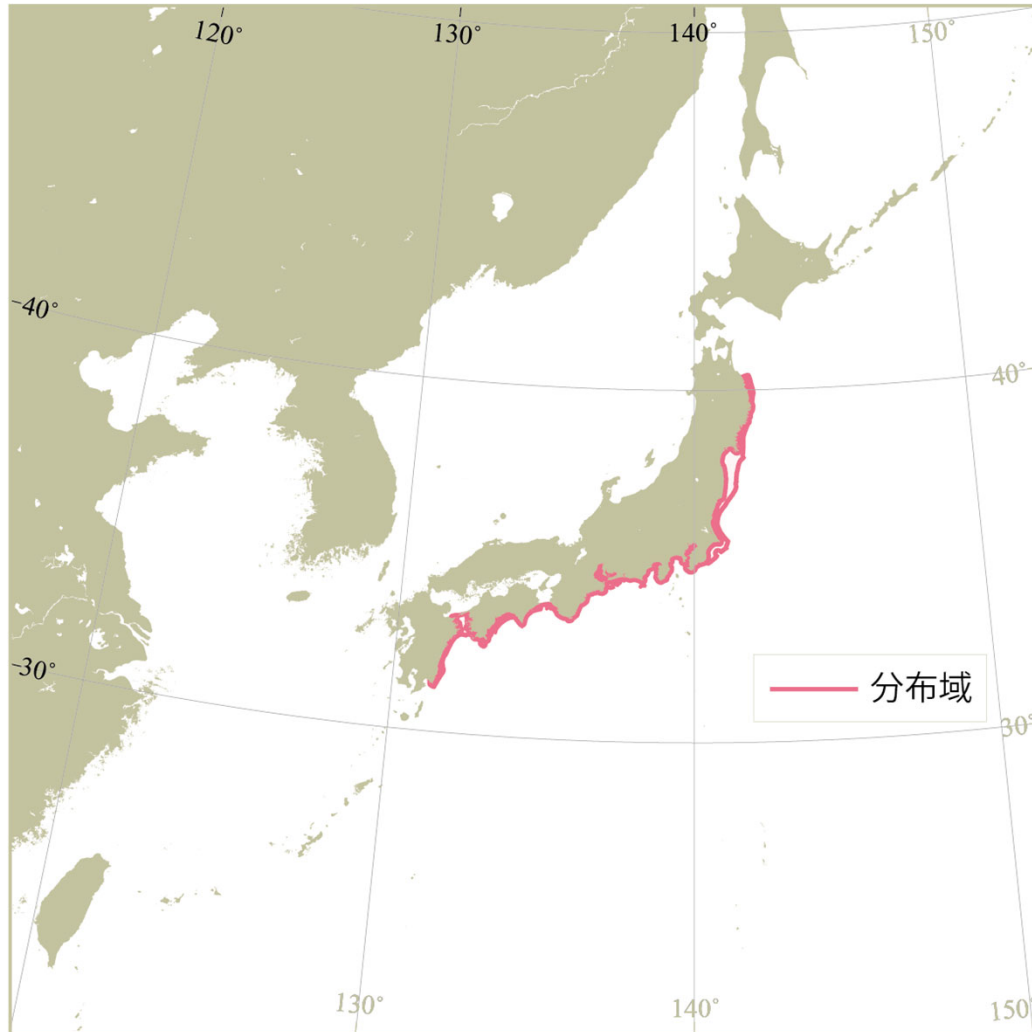




# ヤリイカ太平洋系群 令和6年度資源評価結果

# 生物学的特性

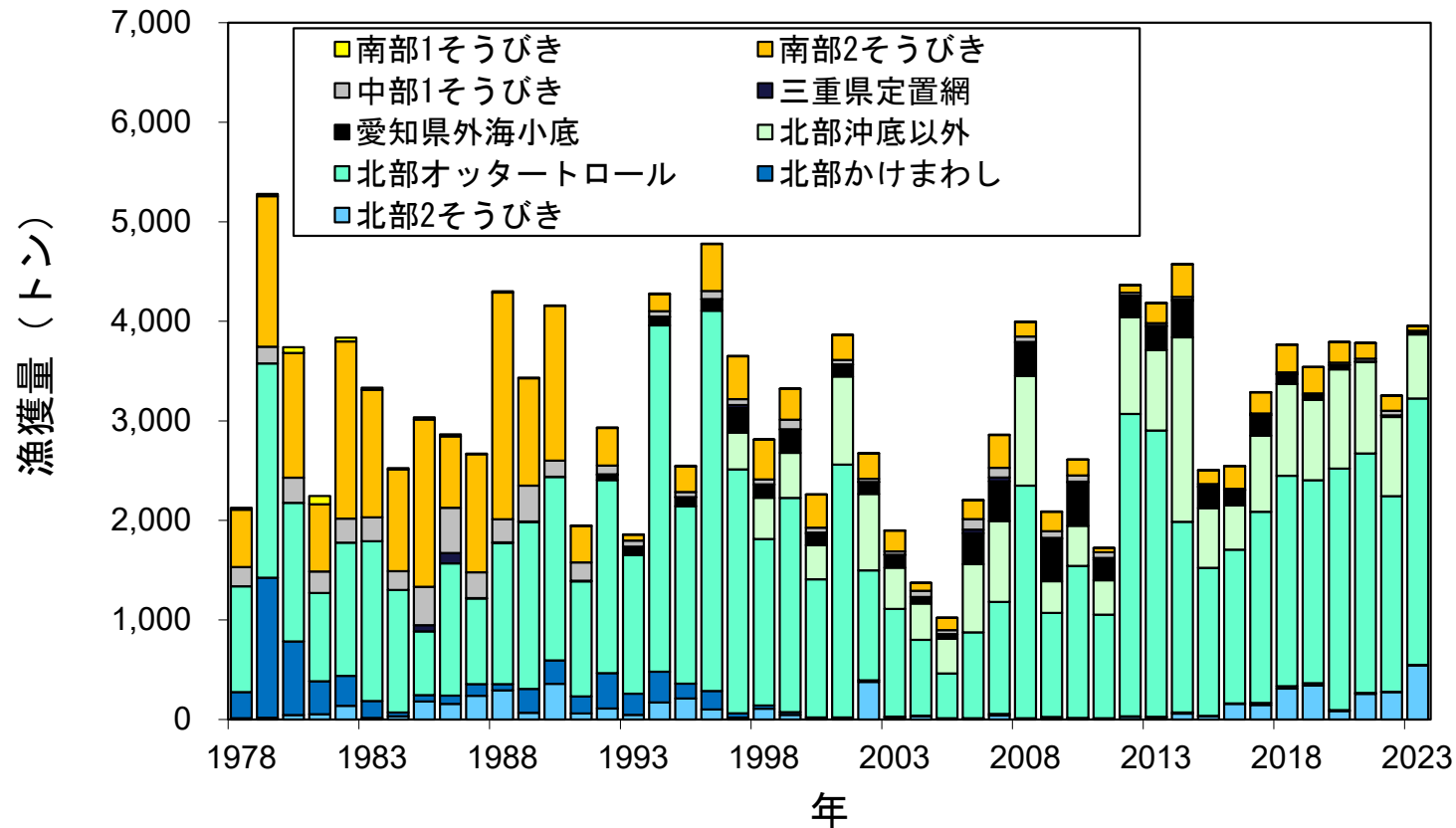


## 生物学的特性

- 寿命：1年
- 成熟開始年齢：約1歳
- 産卵期・産卵場：  
1～6月、九州～東北沿岸各地
- 食性：外套背長50mmまでは主にカイアシ類、60～150mmではカイアシ類、オキアミ類、アミ類、170mm前後からは魚類
- 捕食者：  
海産哺乳類、大型魚類等

- 主に沖合底びき網漁業（沖底）によって漁獲される
- 北部（岩手県～千葉県）と中部・南部（静岡県以西の本州、四国および九州）で漁業の状況と資源の変動傾向は異なる

# 漁獲の動向①

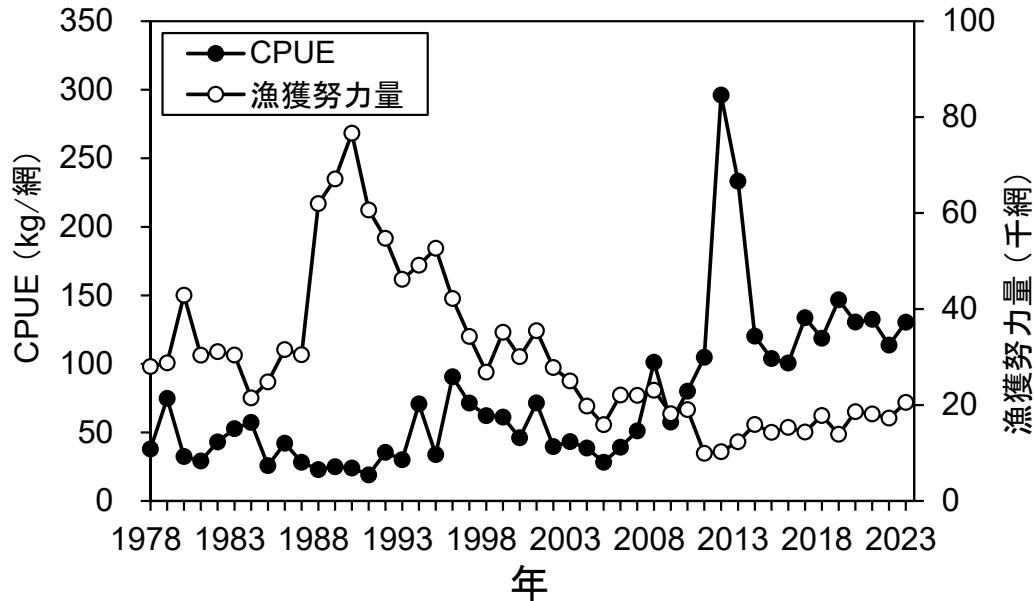


- 漁獲量は1990年代以降、北部（岩手県～千葉県）で増加、中部（静岡県以西の本州）、南部（四国・九州）で減少
- 2012年以降は北部の漁獲量が全体の80～90%を占める
- 2023年の太平洋系群全体の漁獲量は3,953トン

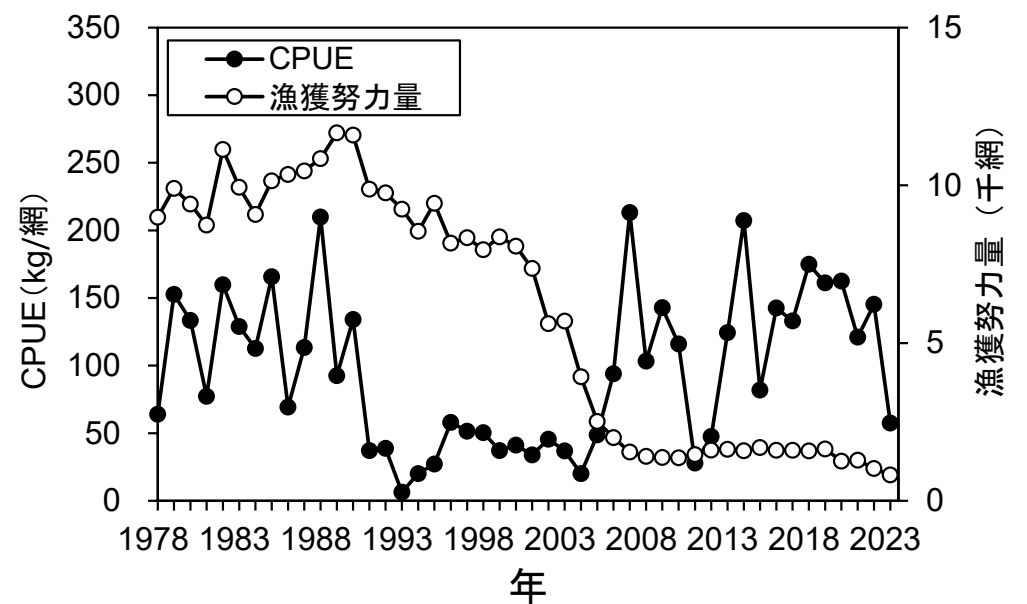
※1そうびき（オッタートロールおよびかけまわし）、および2そうびきは全て沖底、愛知県外海小底は愛知県渥美外海での小型底びき網漁業（小底）を示す

# 漁獲の動向②

北部主漁法：オッタートロール



中部・南部主漁法：南部2そうびき

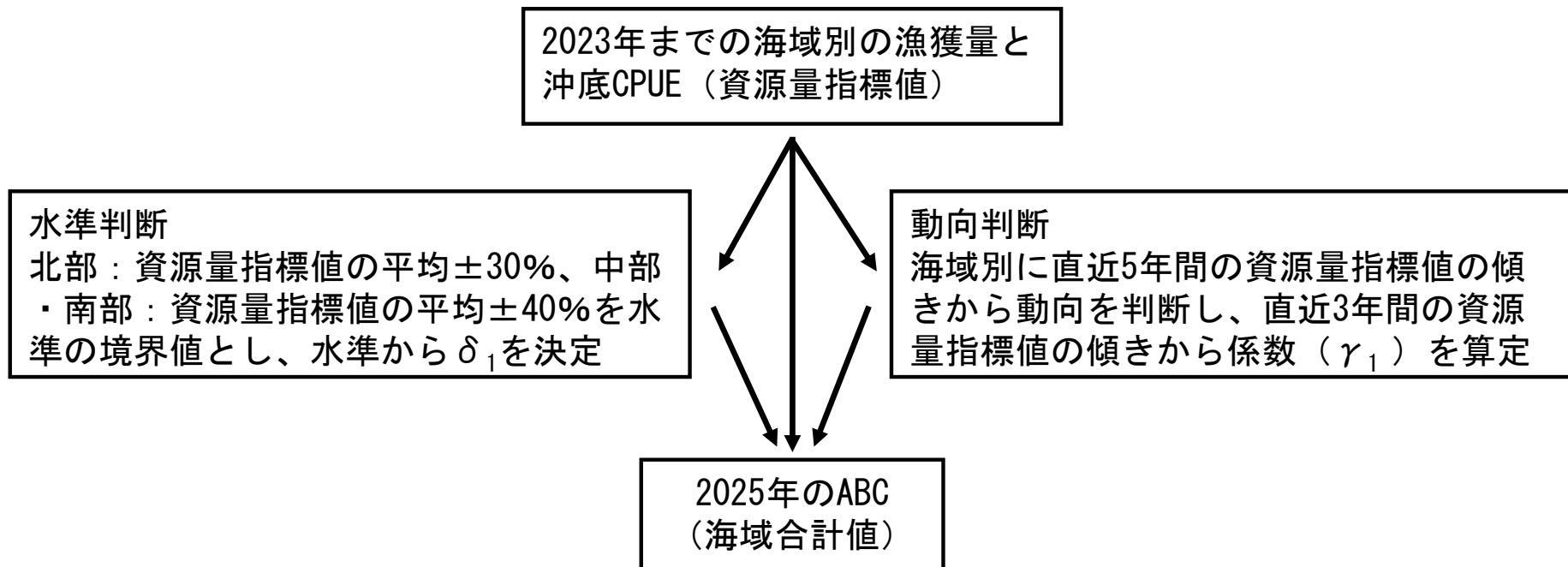


- 北部の主漁法：沖底のオッタートロール  
1990年以降漁獲努力量減少
- 中部・南部の主漁法：南部の2そうびき  
着業隻数の減少に伴い2000年代に漁獲努力量が大きく減少

※CPUE：年間漁獲量／年間漁獲努力量

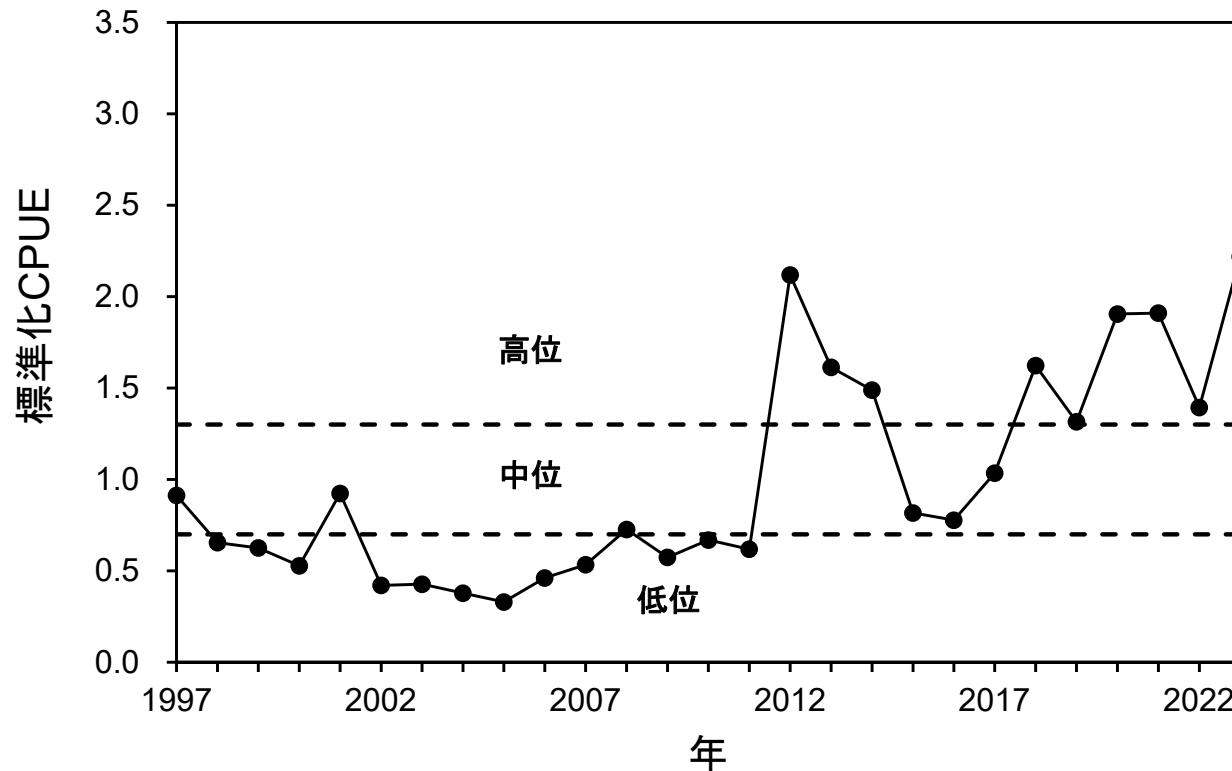
※漁獲努力量：有漁網数(ヤリイカが漁獲された日の網数を集計したもの)

# 資源評価の流れ



※ ABCは漁業法改正前の考え方に基づく基本規則を適用した値

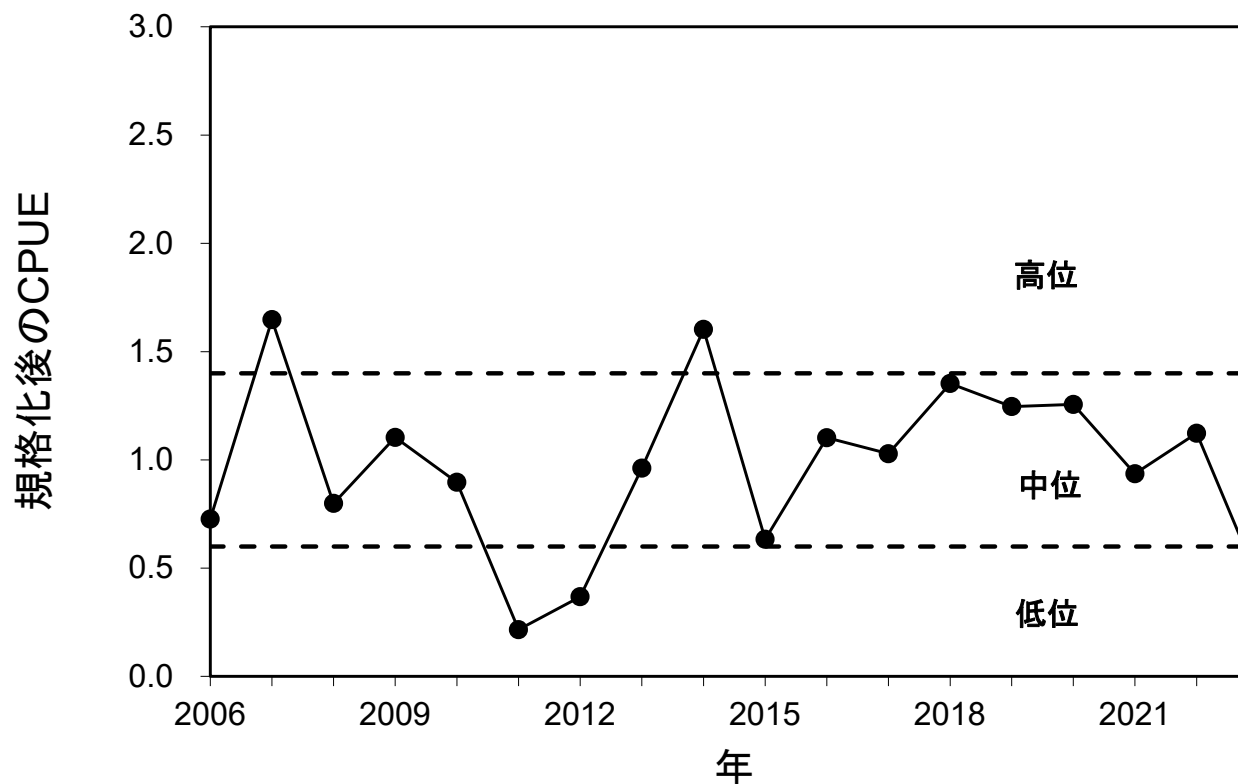
# 資源の動向①



※水準区分 低位／中位：標準化CPUE 0.7、中位／高位：標準化CPUE 1.3  
(1997～2023年の平均値が1となるよう規格化した標準化CPUEの値で水準判断)

- 北部はオッタートロールの標準化CPUEから判断
- 資源水準：2023年の標準化CPUEは2.22で「高位」
- 資源動向：直近5年間（2019～2023年）の標準化CPUEの推移から「増加」

## 資源の動向②



※水準区分 低位／中位：規格化CPUE 0.6、中位／高位：規格化CPUE 1.4  
(2006～2023年の南部2そうびきのCPUEの平均値が1となる規格化CPUEで水準判断)

- 中部・南部は南部2そうびきの規格化CPUEから判断
- 資源水準：2023年の規格化CPUEは0.44で「低位」
- 資源動向：直近5年間（2019～2023年）の規格化CPUEの推移から「減少」

# 資源評価のまとめ

- ヤリイカ太平洋系群全体の資源水準は高位、動向は増加
- 北部と中部・南部で海域別に資源状態を判断し漁獲量比から北部を優先

## 2025年ABC

管理基準	Target/ Limit	2025年ABC (トン)	漁獲割合 (%)	F値(現状のF値か らの増減%)
1.0・北部Cave3-yr・1.08 0.7・中部・南部Cave3-yr・0.71	Target	3,100	—	—
	Limit	3,870	—	—

- 漁業法改正前の考え方に基づく基本規則の2-1)により、  
 $ABC_{limit} = \delta_1 \cdot Ct \cdot \gamma_1$ で計算
- $\delta_1$  : 北部は1.0 (高位水準での標準値)、中部・南部は0.7 (低位水準での推奨値)
- $Ct$  : Cave3-yr (直近3年間 (2021~2023年) の各海域漁獲量平均値)
- $\gamma_1$  : 1.08、0.71 (資源量指標値の直近3年間の傾きと平均値から算出)
- 系群のABCは海域ごとに算定したABCの合計値